

令和7年10月6日（月） 後期 始業式 校長あいさつ

今日から後期が始まります。

前期でも、部活動の大会、プレゼン甲子園、理数グランプリ、課題研究の成果発表など、皆さんは学校内だけでなく学校外においても大いに活躍し、マスコミにも数多く取り上げられ、様々な場面を目にした私自身も大変嬉しく思いました。また、県庁や福井市役所からも皆さんの課題研究の件で、「あの活動のお手伝いをしたい」と、わざわざ電話をいただいた方もいました。

2年生や1年生の皆さんの中で、是非、そのような先輩たちの研究を引き継いでくれる人も出て研究を深めてくれればと願っています。

さて、後期は、1年生、2年生の皆さんにとっては学年の集約（まとめ）とともに次のステージ（次学年）の準備段階となります。3年生の皆さんにとっては、それぞれ一人ひとりの持つ「夢」を実現させるための、次のステージに進む進路実現の時期です。本校の先生方、中学校の先生方も含めて教員全員が皆さんの夢の実現に向けて支援を惜しみません。そして何よりも、2年生、1年生、中学生、後輩全員も皆さんを応援します。

3年生の皆さん、何事にも精一杯打ち込んできた皆さんの姿を、是非、後輩に見せつけて下さい。

そこで、エールを送る意味も込めて、話をしたいと思います。

高校生の皆さんは1990年代後半から2012年頃までに生まれた「デジタルネイティブ」世代で、所謂「Z世代」と呼ばれる世代といわれています。ある「行動経済学」の本では「タイパ（タイムパフォーマンス）」と「コスパ（コストパフォーマンス）」を重視している点が特徴とされていました。どちらも効率性を評価する言葉で、短時間で、ネットからすぐ情報を引き出し、A1から文章だけでなく様々なものを創作してしまう若者世代を彷彿させる言葉かもしれません。

しかし、この高志で学ぶ皆さんは、手っ取り早く情報検索できるネットや文章や画像まで創作できるA1等は手段としてうまく利用するだけで、自己の進路実現や自分が切り拓いていかねばならない未来社会を創り出す力は、自分自身の毎日毎日の地道な努力で身につけなければならないと判っているはずです。アニメ制作で様々なIT機器を利用・活用した宮崎駿監督も「世の中の大事なことは、たいてい面倒くさいことだ」との言葉を残しているように、人生で本当に価値のあることや、本質的な取り組みは、楽なことではなく、時間と手間がかかるものであるということを訴えています。

しかし、1日は24時間と時間は限られています。時には焦る気持ちに不安を持つこともあるでしょう。その中でどうすれば密度の濃い、内容の深いことを身につけるための手間暇かける時間と同等な効果を上げることができるのでしょうか？ これこそ、究極の「タイパ」だと思います。

そこで、もう一つの言葉を紹介します。それは徳川家の剣術指南の家であった柳生家の家訓です。
「小才は 縁に出会って 縁にきづかず、 中才は 縁にきづいて 縁を生かさず、
大才は 袖すり合った 縁をも生かす」 です。

つまり、1日、1日のどんな小さいことでも、1日の中でいくつも起こる小さいことでも、「何事も自分の為に生かすこと！」この言葉にヒントがあり、多くの脳科学の研究者も成功するための秘訣と捉えているものです。

皆さん。ともに励みましょう。自分も励みます。